

夏季吟道大学時間割

7月16日(土)

時間	項目/講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35-12:55	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
13:00-13:30	〈開講式〉
13:30-13:50	一、吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革/沼崎富会長
13:50-14:20	二、審査規定の解説とコンクール審査の実態/徳田寿風副会長
14:20-14:40	三、公益財団の組織運営と指導者の役割/池内賢二専務理事
14:40-14:50	〈記念撮影〉
14:50-15:10	〈休憩〉【チェックイン】
15:15-16:45	四、漢詩観賞/漢詩家 鷺野正明先生
17:00-17:45	〈夕食〉
18:00-19:30	五、現代における伝統芸能の課題/講師(能楽) 梅若幸子先生
19:40-20:40	六、班別座談会
20:45-21:45	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰室・就寝〉

7月17日(日)

時間	項目/講師
6:00	〈起床〉
6:20-6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00-8:00	七、意見交換会 一吟詠の普及振興をめぐる一
8:00-8:50	〈朝食〉
9:00-9:10	【チェックアウト】班別に手荷物整理後、会議場集合
9:15-9:25	〈休憩〉
9:25-10:55	八、吟詠講義/横山寿城顧問
11:00-11:50	九、吟詠の発声法(伴奏との調和研究)/演奏家 河野正明先生
11:50-12:30	〈昼食〉
12:30-14:10	十、研修吟詠
14:10-14:20	〈休憩〉
14:20-14:50	〈閉講式〉
14:50-15:00	事務局通達



4年ぶりに帰ってきた吟道を究める2日間

7月16日(土)
13時から22時まで
盛りだくさんの9時間

夏季吟道大学はこれまで千葉県成田市の成田東武ホテルエアポートにて実施されてきましたが、今回から愛知県碧南市の勤労青少年水上スポーツセンターにて開催。12時にJR三河安城駅に集合し、マイクログラスにて移動。センター2階の多目的室にて、事務局通達に続いて開講式が行われました。

〈開講式〉

吟道大学の第一歩は「礼と節」。集合した時には必ず班長が全員そろったことを報告し、「受講生起立、礼!」のかけ声とともに式や講義が開催されます。多田正稔副会長の「開講の



今回から会場となった「勤労青少年水上スポーツセンター」は、公益社団法人日本モーターボート選手会が運営・管理をし、「日本モーターボート選手会常設訓練所」としての役割も持っている施設

日本財団助成事業

日時：令和4年7月16日(土)～17日(日)
場所：愛知県碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター
主催：公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

令和4年夏季吟道大学開催

「吟剣詩舞道の本質を学ぶ」ことを目的に、日本全国から選ばれた吟詠指導者を対象に昭和44年からスタートした「吟道大学」。平成30年に第45期が開催されて以来、コロナ禍などにより中止を余儀なくされましたが、このほど(公財)日本財団の助成により愛知県の勤労青少年水上スポーツセンターにて4年ぶりに開催。36名の受講者が参加してさまざまな講義を受けるとともに、活発な意見交換を行いました。



右下:梅若幸子先生の講義では、長男である能楽師・梅若英寿(ひでひさ)さんが『高砂』の舞を実演してくれた



左:沼崎富会長をはじめ役員、講師、受講生がそろって記念写真。前回の平成30年度の受講生は117人だったが、コロナ禍と施設の規模により38人(うち2人欠席)に縮小された

右上:受講生を代表して深田振霊第1班班長が「学長はじめ先生方のご指導に従い、大学の課程を修めることを誓います」と受講生誓いのことば

講師と講義の内容

(六時限目は班別座談会、七時限目は意見交換会、十時限目は吟詠研修)



〈一時限目〉沼崎富会長

吟剣詩舞道憲章の精神と財団の組織改革
吟剣詩舞道憲章の7項目を実例を挙げて解説、さらに昨年実施された組織改革について説明



〈二時限目〉徳田寿風副会長

審査規定の解説とコンクール審査の実態
笹川鎮江二代会長の講義録を元にして、吟詠コンクールの一般審査の実態と注意点を解説



〈三時限目〉池内賢二専務理事

公益財団の組織運営と指導者の役割
従来の常任理事会を中心にした組織運営を、評議員会を頂点としたものに変えた経緯を説明



〈四時限目〉鷺野正明先生(漢詩家)

漢詩観賞
吉田松陰『辞世』、杜牧『漢江』などを例に「詩人の個性と表現」について、中国語を含めて解説



〈五時限目〉梅若幸子先生(講師)

現代における伝統芸能の課題
能についての解説とともに、後継者問題など吟剣詩舞とも共通する伝統芸能の課題に言及



〈八時限目〉横山寿城顧問

吟詠講義
西道傳『城山』と王翰『涼州詞』を教材に全員で素読するとともに班長等の吟詠研修も実施



〈九時限目〉河野正明先生(演奏家)

吟詠の発声法(伴奏との調和と研究)
吟詠コンクールに入賞するための7つの提言として「本数の選択」「音程の正確さ」などを解説

ことば」で開講式が開始。「国歌斉唱」は全員マスクをしたまま、控えめに歌うというウイズコロナでのルールです。

まず沼崎富会長が「ふたたびコロナ感染者が増加していますが、行動制限なしということでは4年ぶりに開催となりました。この2日間が有意義で実りあるものになるようよろしくお願ひします」と挨拶。続いて深田振霊第1班班長が受講生誓いのことば。さらに矢立鳳山第2班班長の先導により、受講生二

同この2日間の期待を胸に『桂林荘雑詠諸生に示すその一』の記念合吟を行いました。

ける伝統芸能の課題」として能楽の世界について貴重な講義を行いました。

一時限目から三時限目までは、左記の内容で約1時間にわたり連続して開催。その後全員で記念撮影をしてチェックイン。四時限目は会報誌「吟剣詩舞」の連載でおなじみの鷺野正明先生による「漢詩鑑賞」の講義。夕食後の五時限目は観世流シテ方の人間国宝・四世梅若実師の長女である梅若幸子先生が、「現代にお

1日目の講義は終了したものの、翌日の「意見交換会」のために班別座談会を開始。「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」をテーマに、四つの班に分かれて活発な意見が交わされました。その後翌朝のために点呼・とり舟体操のリハーサルなどを行い、22時ようやく部屋に戻って就寝となりました。

令和4年度夏季吟道大学受講者一覧 ◎=班長、○=副班長

1班

地区	氏名	指導歴(年)	性別	流会派及び役職名
北海道	秋葉 琴紫	10	女	北詩連緑村流琴玲琴紫会 会長
東日本	井山 仙翠	10	女	吟道絃仙流白鷗会本部 総務部部長
中部	大橋 東風	23	男	洛風流郊風吟詠会 副会長
中部	中島 賀翔	3	女	翔鴻流静陵吟詠会 師範
中国	武田 美鵬	7	女	朝翠流本部 宗範
中国	関口 麗煌○	8	女	清吟堂吟友会松江ブロック 指導副部長
四国	定國 伯風	10	男	臥風流吟詠会 常任理事
九州	深田 振靈◎	17	男	淡窓伝光霊流日本詩道会 総本部事務局長
九州	小林 鈴永	7	女	日本吟声流 師範

2班

地区	氏名	指導歴(年)	性別	流会派及び役職名
北海道	澤田石 琴瑠	11	女	北詩連緑村流琴声会 副会長
東日本	小山田 仙豊	3	女	吟道絃仙流白鷗会 総務部部長
中部	中西 総源	5	男	詩吟総穂流総尚会事務局長
中部	石川 祿翔	4	女	翔鴻流静陵吟詠会 理事
中部	福澤 義洲	3	女	聖風流吟道会 副事務局長
近畿	若杉 心翔	15	男	詩道翔風吟詠会 理事長
中国	銅山 寛鵬	3	男	朝翠流師範会 理事長
中国	矢立 鳳山◎	20	女	水真流芸峰吟詠会 会長
四国	大窪 柳星	21	男	吟謡柳星会 会長
九州	岩永 優岳○	10	女	(公社)日本詩吟学院認可岳鐘会 師範

3班

地区	氏名	指導歴(年)	性別	流会派及び役職名
北海道	成田 琴裕	10	女	北詩連緑村流旭川支部
東日本	杉浦 美早	5	女	旦早流吟詠会 範師
中部	山田 秀蒼	3	女	桜笙流本部 奥伝
中部	阿保 照澄◎	38	男	近代詩吟照風流 吟和吟詠会 会長
中部	下口 海紫	4	女	紫海流日本峰秀吟詩会 福井県本部師範
近畿	日下 鳳英	5	男	関西吟詩文化協会滋賀恵声会 事務局長
四国	北村 芯翠○	4	女	翠峰流建依別吟詠会 理事
九州	江藤 宣靈	5	男	淡窓伝光霊流珍珠詩道会 副会長

4班

地区	氏名	指導歴(年)	性別	流会派及び役職名
東日本	上村 瑛鳳	3	女	吟詠吟舞錦流吉久林会 師範
東日本	池田 積諒	8	女	積峰流南風吟詠会
中部	山本 要流	3	男	水洋流詩吟朗詠会 事業部長
中部	加藤 光風	3	男	(公社)日本詩吟学院認可 白鳥吟詠会
近畿	松井 清鳳◎	20	女	吟道貴清流清鳳吟詠会 宗家会長
中国	森戸 慰山	5	男	水真流聖山吟詠会
四国	遠藤 揚苑	3	女	揚心流日本朗詠会 吟詠・詩舞両支部長
四国	飯田 芳風	10	女	臥風流春日吟詠会 副会長
九州	牛島 玲豊○	4	女	豊吟吟道会 師範代

副班長は4人中3人が少壮吟士&候補



少壮吟士を目指している方は吟道大学への参加が推奨されているが、今回はすでに少壮吟士および候補になっている3人が参加して副班長を務めた(写真右から)。
第1班副班長:関口麗煌少壮吟士「スケジュールが詰まっていたハードでしたが大変勉強になりました。地元テレビ番組で詩吟を紹介してもらうなど活動していきます」
第2班副班長:岩永優岳少壮吟士「これまで全国の先生方と交流する機会がなかったので良かったです。地元で漢詩や和歌の勉強会なども開催していこうと思います」
第3班副班長:北村芯翠さん「会員さんを増やしていくための基本的な努力が必要だと思い知らされました。漢詩だけでなく、和歌の勉強にも取り組んでいきたいです」
第4班副班長:牛島玲豊少壮吟士候補「どの地区の方も同じ悩みを抱えていることを痛感しました。別なジャンルとのコラボなどを積極的に進めていきたいです」



上:2日目は朝6時20分から点呼に続いて吟道大学恒例の「とり舟体操」『ししまの』など和歌を詠いながら舟の輪を漕ぐ形を繰り返す
 下:吟道大学のハイライト「吟詠研修」1番目で、すぐ緊張しましたが(井山仙翠さん。写真左端)と皆感激しきりだったが、他の人に対する講評もためになる100分間だった

7月17日(日)

活発に意見を交換、吟剣詩舞道の発展を誓い合う

〈意見交換会〉

「吟剣詩舞の将来のあるべき姿、目指す方向」をテーマにした前夜の座談会での議論の内容を、各班の班長が発表。内容は右下の囲み内を参照。

〈八時限目〉

横山寿城顧問が西道僊「城山」と王翰「涼州詞」を教材に吟詠講義。ユーモラスな語りで受講生をなごませ、最後には笹川鎮江二代会長の『兜』の吟詠を鑑賞しました。

〈九時限目〉

「吟剣詩舞」の連載でおなじみの演

奏家・河野正明先生による吟詠コンクールに入賞するための7つの提言。「本数の選択」「伴奏の選択」「音程の正確さ」「発声の確かさ」「アクセント」「ゴブシ」緊張したら諦めが肝腎」と実践的な解説がなされました。

〈十時限目〉

毎回楽しみにしている受講生も多い吟詠講習。17人が今年度吟詠コンクールの指定吟題の中から吟詠を行い、河野先生、徳田副会長、横山顧問が講評。「ヒブラートが入りすぎ」「暗めの吟題なのに明るく聴こえる」など、厳しいながらも受講生のやる気を引き出す研修となりました。

〈閉講式〉

休憩をはさんで閉講式。国歌斉唱に続き、沼崎会長が挨拶。各班の班長に修了証書が授与され、受講生を代表して松井清鳳第4班班長が「同大学で学んだことを生かし、さらに研鑽を積んで吟剣詩舞の普及発展に邁進することを誓います」と感謝の言葉を述べました。最後に全員で財団会詩を合吟、徳田副会長の閉講の言葉で、実り多い2日間の幕を閉じました。

誓いを新たに:班長の声



第1班班長:深田振靈さん

「吟道精神をしっかりと身につけ、他の地域の方々とも交流を図りたいことを目標にきました。受講生の皆さんは非常に活気があり、また講師の先生方の熱意もしっかり伝わって勉強ができ、有意義な2日間になりました」



第2班班長:矢立鳳山さん

「会員を増やす方法などお話を聞ければいいなと思い参加しました。河野先生のお話を楽しみにしていましたが、やはり非常に勉強になりました。吟詠研修に自分も入っていましたが、時間切れでできなかったのが心残りです(笑)」



第3班班長:阿保照澄さん

「一応会長をやらせていただいている、個性の違う方をどのように指導したらいいか学びたいと思って来ました。全体に新発見のことも非常に多く、ふだん情性で練習していたなと思い知らされ、今後に役立てたいです」



第4班班長:松井清鳳さん

「亡くなった師匠から「吟道大学で班長をしたけどとても良かった」と聞き、独立して新しい会を作ったので一から勉強するつもりで来ました。能楽界の梅若先生の後継者についてのお話自分にも身につまされて良かったです」



1日目夜の「班別座談会」の光景。1〜4班の各班に各運営世話役がついて進行役を務めた

「吟詠の普及振興をめぐる」

【班別座談会討議テーマ】()内は担当世話役
 第1班(清水錦洲理事)「積極的に前に向かって取り組みを進めていかないといけない。こういう機会を十分に生かして意見交換を重ね、参考にできる部分を自分たちの住む地区や会派に少しでも還元していくことが大切」
 第2班(石川春海少壮吟士)「小さな子供を対象に詩吟のタネを植え付ける活動が必要。子供の目線に合わせてわかりやすく、興味をひくような教え方を工夫する。形にとらわれない詩吟を目指して指導者も意識改革していく」
 第3班(浅田聖謙少壮吟士)「チケット制で体験詩吟。定年後の60歳以上の方をターゲットに募集。カラオケ喫茶などの中で詩吟。コミュニティセンターなど公共施設に募集チラシを置くなど積極的に普及活動をする」
 第4班(鳥居翔麟参与)「ワークショップなどで一緒に声を出す、歴女に歴史の勉強にもなる声をかける、さまざまなサークル等とコラボするなど。さらに着物を着られる、健康になるなど詩吟のメリットを訴える」

休むことのない 吟界最高峰への研鑽

吟界最高峰の少壮吟士の研鑽の場として、年に一度開催されてきた少壮吟士並びに同候補夏季特別研修会。コロナ禍により一昨年は中止、昨年はオンラインで実施されましたが、3年ぶりに対面形式での開催が実現しました。新型コロナウイルス感染症のために不参加を余儀なくされるなど、現役少壮吟士47人中8人が欠席し、少壮吟士候補2人とあわせて41人が参加。吟詠専門委員に剣詩舞家を交えた講師陣により、厳しくも愛のある指導が行われ、充実した2日間を過ごしました。

日本財団助成事業

〔日時〕令和4年8月27日(土)～28日(日)
〔場所〕愛知県碧南市 勤労青少年水上スポーツセンター
〔主催〕公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

1日目 8月27日(土)

【令和4年度少壮吟士候補特別研修会(第43期)】

- 13:25～14:15 ① 国歌斉唱並びに財団会詩合吟
② 財団役員紹介
③ 特別参加の宗家、会長紹介
④ 少壮吟士候補者紹介
⑤ 財団代表挨拶:沼崎 富会長
⑥ 少壮吟士候補者への期待
⑦ 吟剣詩舞の向上と指導者の役割:
徳田寿風副会長
⑧ 剣詩舞道家からの期待:多田正稔
副会長

【令和4年度少壮吟士夏季特別研修会】

- 14:20～16:40 ① 吟詠演習 その1(講師:吟詠専門
委員及び剣詩舞家)
17:00～18:00 夕食
18:10～19:20 ② 吟詠演習 その2
19:30～20:30 ③ 吟詠演習 その3
20:40～21:30 ④ 全国少壮吟士会総会

2日目 8月28日(日)

- 8:00～8:50 朝食
9:00～9:50 ⑤ 吟詠音楽の基礎知識についての
提言:尺八演奏家 河野正明先生
10:00～12:00 ⑥ 吟詠演習 その4
12:00～12:50 昼食
13:00～13:50 ⑦ 意見交換会
14:00～14:40 ⑧ 研修会閉講式



上: 研修会冒頭の国歌斉唱並びに財団会詩合吟は、全員マスクをつけた状態で実施。「ウィズコロナ」でのイベントの在り方を印象づけた
左: 「吟詠演習」は新型コロナウイルス感染防止対策として、吟者の正面にビニールが貼られた状態で行われた

少壮吟士候補紹介

3月13日に行われた「第49回全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会」にて3回目の入選を果たし、晴れて少壮吟士候補となった2人。所属する各流派の宗家・会長が愛弟子のプロフィールなどを紹介しました。



大森麗禎候補(愛媛)
大越清透(清吟堂吟友会会長)

「大森さんは平成13年に私どもの会に入会しました。心優しい方ですがかなりの努力家で、毎日先生のところに練習しに行って頑張ってきました。ただ肝腎な時に失敗することがあって、昨年は『今回は調子がいい。いける!』と思ったら最後の最後で失敗しました(笑)。これからもいろいろあると思いますけども、前を向いて、しっかりと立派な少壮吟士になるように努力していただきたいと思います。先生方には温かく見守っていただきまして、ご指導、ご支援を賜りますようお願いいたします」



牛島玲豊候補(福岡)
小塩晃楼(豊見吟道会会長)

「父親と一緒に5歳くらいから教室に遊びにきておりました。高校卒業して進学後、家を離れたので休会。出産後ようやく再開しました。再開後はお父さんの指導を受けていましたが『父では物足りない』ということで私のところに来ました(笑)。年齢制限ぎりぎりでしたので、少壮コンクールに向け一生懸命頑張っていました。ちょっとおつよこちよいのところはありますが、それが皆に愛されている要因だと思います。ようやくスタートラインに立ちました。ご協力ご支援いただきますようよろしくお願いいたします」



「剣詩舞道家からの期待」について講義した多田正稔副会長。「個人の實力を上げていくことが大切。生伴奏による丁々発止の吟詠をできるだけ経験し、演奏家、剣詩舞家と三位一体で高めあってほしい」と語った



「吟剣詩舞の向上と指導者の役割」について講義した徳田寿風副会長。26年間にわたって少壮吟士として活躍した自らの経験を踏まえて、「少壮になった時が頂点ではなく、ここからがスタート」と心構えを説いた

多くはJR三河安城駅に集合。送迎バスにて会場に向かいます。到着後和服に着替え、13時25分から日本吟剣詩舞振興会の運営による少壮吟士候補特別研修会がスタート、3月に開催された全国少壮吟詠家審査コンクール決選大会(少壮コンクール)にて3回目の入選を果たした大森麗禎さん、牛島玲豊さんの2人が晴れて少壮吟士候補として研修を受講します。それぞれの流派の宗家・会長から

8月27日(土) 少壮吟士の心構えを育む 少壮吟士候補特別研修会

「昨年まで千葉県の成田東武ホテルエポルトで開催されてきた少壮吟士並びに同候補夏季特別研修会。今回は公益社団法人日本

モーターボート選手会が運営管理する愛知県の「勤労青少年水上スポーツセンター」にて開催されることになりました。7月に実施された「夏季吟道大学」に続き、日本財団の助成により実現した新しい試みです。

8月27日土曜日正午、参加者の



今回の吟詠演習は剣詩舞コンクール指定吟題を吹き込む少壮吟士の研修を兼ねていたことから、多田正稔副会長とともに日本壮心流の入倉昭星宗家が剣詩舞家を代表して講師を務めた

紹介を受けた後(上欄参照)、財団代表として沼崎富会長が「新型コロナウイルスの感染の高止まりが続くなか、3年ぶりに対面形式による研修会が開催できたことをうれしく思います。少壮吟士はすべての吟詠家にとっての憧れの的です。自己を見つめなおす機会として、2日間を有意義に過ごしてください」と挨拶しました。続いて「少壮吟士候補者への期待」として、徳田寿風副会長が「吟剣詩舞の向上と指導者の役割」について、多田正稔副会長が「剣詩舞道家からの期待」について講義して少壮吟士候補特別研修会が終了。14時20分から少壮吟士会の自主運営による少壮吟士夏季特別研修会へと移行しました。

永遠に続く少壮吟士としての誇り

少壮吟士は65歳定年制。少壮吟士研修会では毎回閉講式にて、今年度で卒業する少壮吟士の表彰が行われ、それぞれの想いが財団役員や後輩たちに伝えられます。今回は伊藤契麗、梶原麗修両少壮吟士が別れの挨拶を行いました。新型コロナウイルス感染のために参加できなかった奥山紅雫少壮吟士を含めて3人に、少壮吟士生活の思い出や今後の活動、後輩に伝えたいことなどを語っていただきました。

—少壮吟士を卒業されることになりましたが、今のお気持ちは？

41歳を超えた時に少壮吟士になり、吟歴50年の節目。長いようで短い、短いようで長い、そんな思いでいっぱいです。来年3月に東日本少壮吟士会による「少壮チャリティー」があり、それが少壮吟士として最後のイ

第二十二期

いとうけいれい
伊藤契麗

契秀流吟詠会
神奈川県



「健康ですべての催しに欠席することなく
続けてこられて幸せでした」

イベントになるので、それに向けて頑張ります。

—少壮吟士として活動されてきて一番印象に残っていることは？

その間、結婚あり子育てあり、自分と主人の親も見て、見送り、というのを終えて、その時期はちょっと大変でしたが、自分自身が健康ですべての催しに欠席することなく終えることができそうで、本当に幸せだなと思っております。

—少壮吟士になって辛かったこと、逆に楽しかったことは？

辛かったことはないですね。楽しかったことはたくさん。いろんなところに行かせていただいたし、たくさんの舞台を踏ませていただきました。少壮吟士になった時の喜びはもちろん雲の上に登るような思いでうれしかったのですが、これがほんととスタートだなどと思っていて、その長い道をどうやって行こうかなあと一生懸命やってきて、今日に至っております。

—少壮吟士として25年やられてきて、心がけてきたことは何かありますか。

先輩方の教えを守りながら、自分自身が向上していくこと。少壮になったことがゴールではないので、もっともっ

と自分の高みを目指していかないといけない。ただ詠うだけではなく、詩心を捉えるには、様々な解説本を読み、詩の意味を理解し、表現するための努力をすることが大切だと思っています。

—今後は少壮OBとしてどんな活動をしていきたいですか？

もっと広く吟詠を知っていたくための活動をする立場であると思いますので、YouTubeでの吟詠の配信や、勉強会などを増やし続けていきたいと思っております。

—後輩の少壮吟士にアドバイスをお願いします。

教える立場として、たくさんのお弟子さんを教えるようにしてほしいですね。教えるためには自分が勉強しなければならぬし、教えることで自分を向上させることができると思っています。

—以前、信条として「練習は嘘つかない」とおっしゃっていましたが、これは今も変わりませんか？

はい。のどの声帯は筋肉でできていますが、歳とともに筋肉は衰えます。しかしトレーニングすることで声帯の衰えを防ぐことができます。練習を重ね、衰えさせないことがますます大切になると思います。



講師の先生方と先輩少壮吟士の前で吟じるのはかなりのプレッシャーだが、「(飛沫対策用の)シートがあったおかげで緊張が和らぎました」と思われ効果もあったよう



講師を務めた剣詩舞家と吟詠専門委員の先生方。厳しいながらも愛情あふれる意見を述べて、演習に挑んだ少壮吟士を感激させた



「意見交換会」にて猪木原源泉少壮吟士(右)の「ん」の節回しの質問に対して「歯茎に舌先をつける」方法を説明する清水錦洲吟詠専門委員(左)



伊東響峰少壮吟士のお腹を押さえて発声の仕方を指導する和田彩風吟詠専門委員。一人につき10分以上丁寧な指導がなされた

「意見交換会」を実施。今回は指導する立場の悩みに対し、講師の先生方が自分の経験も交えてアドバイスしました。
こうして研修会が無事終了。閉講式で受講生を代表して大森麗禎候補が「ここで学んだことを胸に刻み、より一層研鑽を重ね、吟剣詩舞道の振興に務めてまいります」と謝辞を述べ、2日間の幕を閉じました。

8月27日(土)、28日(日)吟詠演習を中心とした少壮吟士夏季特別研修会
少壮吟士夏季特別研修会の目玉である「吟詠演習」。土曜と日曜の2日間にわたり、6時間以上実施されました。
まず少壮吟士候補の2人と、対面形式の研修会には初参加となる42期の少壮吟士4人が、来年3月に開催される第50回全国少壮吟

詠家審査コンクールの指定吟題で演習を行います。
講師を務めるのは徳田寿風副会長と、尺八演奏家の河野正明先生。厳しい少壮コンクールを勝ち抜いたとはいえ、講師の先生方と少壮吟士の先輩方を前にして吟じるのはかなりのプレッシャー。先陣を切った大森麗禎候補は緊張の色を隠せませんでした。河野先生は「だんだん緊張してきたようですが、こういう環境でできるのはひとつの

チャンス」と励ましました。
6人が終わった後は、令和5年度剣詩舞コンクール指定吟題をC Dに吹き込む予定の22人が順番に演習。剣詩舞家を代表して多田正徳副会長と入倉昭星評議員の2人及び吟詠専門委員8人が講師を務めます。
1人の少壮吟士につき、剣詩舞家1人と吟詠専門委員3人が評しますが、最高峰の吟詠家である少壮吟士に対して「間延びしてい



閉講式で恒例の「桂林荘雑詠諸生に示す(その一)」の合吟を先導する牛島玲豊候補。緊張の2日間を無事に終えて安堵の表情を見せた

—今回は研修会開催直前に新型コロナウイルスに感染してしまい、参加が叶いませんでしたが、卒業するにあたり今のお気持ちは？

最後の研修会なので本当に行きたかったです。着物も何もかもすべて用意していたのですが(笑)。皆様にお会いして感謝の気持ちをお伝えできなかったのが残念

第三十三期

おくやまこうせん
奥山紅雫

関西吟詩文化協会
大阪府



「吟詠人口を増やすとともに
詩の意味を伝えていきたいです」

です。卒業するにあたっては感無量という気持ちです。

—少壮吟士として活動されてきて一番印象に残っていることは？

生まれつき糖尿病の持病を持っていて、コントロールうまくいなくて倒れたりしていたのですが、大会でも具合が悪くなったことがあります。でも皆さんに助けていただいて、仲間がいたからここまでやってこられたなと喜んでいきます。

—辛かったこととしてはそ
のご病気ということになりま
すか？

辛いという思いはなくて、どれもこれも楽しい思い出です。少壮になった時は私の吟力でやっていけるのかなとか思いましたが、お弟子さんがいてくれたことがすごい励みになりました。自分も上を目指していこうと勉強していくことによって、今やっと詩吟を詠っていく喜びみたいなことが感じられるようになりました。

—とくに楽しかった思い出は？

私は主人の上司だった山口華雫先生に勧められて詩吟を始めましたが、少壮に挑戦して10年くらい入選できませんでした。それで元旦以外1年364日練習して、第37回から3回連続で入選して少壮

になりました。最後は東日本大震災の年で憧れだった武道館での表彰式がなかったのですが、翌年にOBの先生方も一緒に出ることになり、山口先生と一緒に武道館の同じ舞台を踏めたことがとてもうれしかったですね。

—今後は少壮OBとして
どんな活動をしていきたい
ですか？

指導はさせていただける限りやっていきたい。やっぱり会員増強ですよね。人を増やしていきたいと思います。少壮吟士の制度もいい方向に向いていってほしいと思いますが、今は息子の嫁も少壮吟士を目指して挑戦していますし、孫は吟詠も剣詩舞もしていて、家族全員で吟剣詩舞発展のために活動しています。

—後輩の少壮吟士にアド
バイスをお願いします。

基本を大切にしてほしいなと思いますね。私も声が全然出なかったのが、劇団四季の人たちと一緒に発声を学んできましたが、基礎の発声を大事にしていくのが大切です。それと形ばかりにとられずに、詩の意味をしっかり把握することですね。私自身これからも、詩の意味をもっといろんな形で伝えていくことができたらと思っています。

—少壮吟士を卒業される
ことになりましたが、今のお
気持ちは？

東日本大震災のあった平成23年に少壮吟士になったのですが、あっという間の12年でした。

—少壮に挑戦して最初
はなかなか入選できなかつ
たそうですが。

挑戦してから少壮になるまでも12年くらいかかっています。落ち込むというより当時は子育てや仕事をしておりましたので、並行して頑張ればという感じでした。平成19年に1回目入選して本腰が入り、21年、23年と1年おきに入選させていただきました。

—少壮吟士として活動さ
れてきて一番印象に残って
いることは？

夏期特別研修会で、吟詠専門委員などの先生方から厳しいご指導していただけることが少壮吟士としての醍醐味であり、自身の成長につなげられたことです。—少壮吟士になって辛かったこと、逆に楽しかったことは？

今になって思い出すのは楽しいことばかりですね。武道館大会や名流大会など大きな舞台、またラジオやテレビへの出演など、少壮吟士でないといけない経験

をさせてもらいました。誤読など失敗したこともありましたが、皆さんに励ましていただいてありがたかったです。少壮吟士としてシカゴに行ったことも、コロナ禍の現在では無理なことなので、本当に良い時に行かせていただいたなと思います。

—少壮吟士としてやって
きて心がけてきたことは？

吟詠の向上を図ることはもちろんですが、少壮吟士はあちらからもこちらからもすべて見られています。言動、立ち振る舞いなど、「あの人、あれで少壮吟士？」と後ろ指指されないように心がけてきたつもりです。年数を重ね、先輩方のお話を伺うたびに身の引き締まる思いでした。

—今後は少壮OBとして
どんな活動をしていきたい
ですか？

去年恩師の家元が亡くなって、私がそのあとを引き継ぐ形になったので、流派を存続させるためにしっかり力入れていきたいと思っています。幼少年も増えているので、子供達に吟詠の楽しさを伝えて、若い世代にさらに吟詠を広げていきたいです。—少壮吟士になるためにはどんなことが必要か、目指している人にアドバイスを。挑戦していた当時は何をど

「宝のような素晴らしい
思い出をいただいた12年間でした」

うすればいいのかわからず、ただただひたすら暗記しました。皆さんやられていると思いますが、絶句十五題と律詩五題もすべて覚えしました。詩の意味をしっかりと把握して、できれば詩文を持たずにコンクールに臨んでいただきたいですね。

第三十三期

かじわられいしゅう
梶原麗修

吟道精修流
神奈川県



時間	項目/講師
12:00	JR三河安城駅 新幹線北口集合
12:35~12:45	注意事項伝達、事務局通達及び世話役紹介
12:50~13:10	〈開講式〉
13:10~13:30	一、剣詩舞道指導者への期待/徳田寿風副会長
13:30~13:50	二、剣詩舞道指導者への提言/多田正稔副会長
13:50~14:05	三、公益財団の組織運営と指導者の役割/池内賢二専務理事
14:10~15:40	四、現代剣詩舞を考える/藤上南山元老
15:40~16:00	〈休憩〉【チェックイン】
16:00~17:20	五、剣詩舞の演技研究/早淵鯉将理事他
17:20~18:05	〈夕食〉
18:10~19:40	六、現代における伝統芸能の課題/梅若幸子先生
19:50~21:00	七、意見交換(剣詩舞の振興をめぐる)
21:10~22:00	〈点呼、とり舟体操の稽古、閉講式リハーサル〉
22:00	〈帰宅・就寝〉

時間	項目/講師
6:00	〈起床〉
6:20~ 6:50	〈点呼、とり舟体操〉
7:00~ 8:00	自室に戻り着替へ・荷物の移動
8:00~ 8:30	〈朝食〉【チェックアウト】
8:45~ 9:45	八、剣詩舞演技指導①/杉浦英容参議
9:50~10:00	バスで碧南市農業者コミュニティセンターへ移動
10:10~11:10	剣詩舞演技指導②/入倉昭星理事
11:20~11:35	バスで勤労青少年水上スポーツセンターへ移動
11:45~12:15	〈昼食〉
12:30~13:45	九、受講者指名演舞(各地区連協から一名)
13:45~13:55	〈記念撮影〉
14:00~14:20	〈閉講式〉
14:20~14:25	事務局通達



「勤労青少年水上スポーツセンター」の多目的室にて、熱心に講義を聴く39名の受講生。極めて濃密な26時間を体験した

4年ぶりに日本全国から剣詩舞家が集結!

2月11日(土) 夜10時までの7項目に渡る講義
 「剣詩舞道大学」は、昭和44(1969)年に創設された「夏季吟道大学」に続き、平成4(1992)年に船の科学館にて初めて開催されました。以降、群舞コンクールが行われない年に隔年で実施されてきましたが、平成31年2月に開催されて以来、コロナ禍のために中止を余儀なくされてきました。

今回は4年ぶりに開催。12時にJR三河安城駅に集合した受講生はマイクロバスにて勤労青少年水上スポーツセンターに移動、事務局通達に続いて早速開講式が実施されました。

〈開講式〉

39人の受講生は4班に分かれ、あらかじめ決められた班長が全員そろったことを報告。世話役の「受講生起立、礼!」のかけ声とともに式や講義が進行します。学長を務める沼崎富会長が「多くの新たな発見ができる喜びが得られ、初心を見つめ直すいい機会です」と挨拶。それに答える形で建部奨容第1班班長が、熱

日本財団助成事業

日時:令和5年2月11日(土)~12日(日)
 場所:愛知県碧南市・勤労青少年水上スポーツセンター
 主催:公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

令和4年度 剣詩舞道大学開催

昨年7月に4年ぶりに開催された「夏季吟道大学」に続き、同様にコロナ禍により平成31年2月以来開催されていなかった「剣詩舞道大学」が、やはり4年ぶりに日本財団助成事業として、愛知県の勤労青少年水上スポーツセンターにて開催。日本全国から各地区連協の推薦を受けた39名の受講者が参加して、実技を含めたさまざまな講義を受け、寒さを吹き飛ばす熱い2日間を過ごしました。



上:沼崎富会長をはじめ役員、講師、受講生がそろって記念写真。前回の平成30年度の受講生は92人だったが、コロナ禍と施設の規模により39人が参加した
 左上:受講生を代表して建部奨容第1班班長が受講生誓いのことば。受講生に選ばれた荣誉を胸に秘め、吟剣詩舞道の真髄を学ぶことを誓った
 左下:五時限目は6人の講師による「剣詩舞の演技研究」。写真は受講生の前で『春日家に還る』を舞う藤上翔山理事

い期待を持って受講生誓いのことばを述べました。
 〈二時限目(四時限目)〉
 13時10分から講義開始。一時限目から三時限目までは、財団役員の徳田寿風副会長、多田正稔副会長、池内賢二専務理事が、左記の内容で約1時間にわたり休みなしで講義。
 四時限目は剣詩舞界の重鎮、藤上南山元老による「剣詩舞の表現と演出」についての考察。「呼吸と腰と氣」、「正しい姿勢」、「緊張と緩和」などさまざまな項目について、ユーモアを交えて解説。終始立ったままエネルギーに語るその口調

はパワーにあふれ、受講者を感動させました。
 〈五時限目〉
 20分の休憩を利用して各自チェックイン。五時限目は講師の先生方による「剣詩舞の演技研究」。早淵鯉将、江口清鳳、上岡眺壯の三氏が剣舞、藤上翔山、見城星舟、青柳弦太郎の三氏が詩舞の実技と解説を行いました。
 〈六時限目〉
 夕食後は観世流シテ方の人間国宝・四世梅若実師の長女である梅若幸子先生による能楽についての講義。今回は同じ舞で表現する剣詩舞家

が受講生とあつて、吟道大学の時とはまた違う内容で、伝統芸能の真髄について語りました。
 〈七時限目〉
 1日目の最後は、受講生と役員による「意見交換」。多田副会長が進行役を務め、あらかじめ受講生から提出された疑問について、役員および講師の先生方を指名して応答。舞の技術や指導について、剣詩舞の振興について、さまざまな意見が交わられました。
 この後、翌朝に行われる点呼とり舟体操の稽古を行い、22時過ぎにようやく終了。

講師と講義の内容

〈一時限目〉
徳田寿風副会長
 剣詩舞道指導者への期待
 吟詠と剣詩舞は車の両輪、厳しい時代の中、力を合わせて活路を見出して行きましようという提案

〈二時限目〉
多田正稔副会長
 剣詩舞道指導者への提言
 「美しい舞を目指して」をテーマに技術の修練、芸術的な表現力、吟詠との調和等について提言

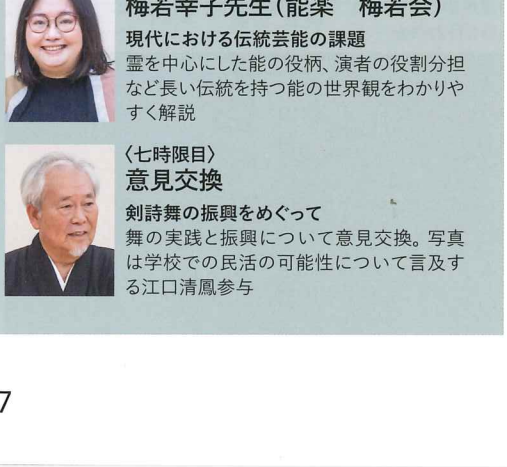
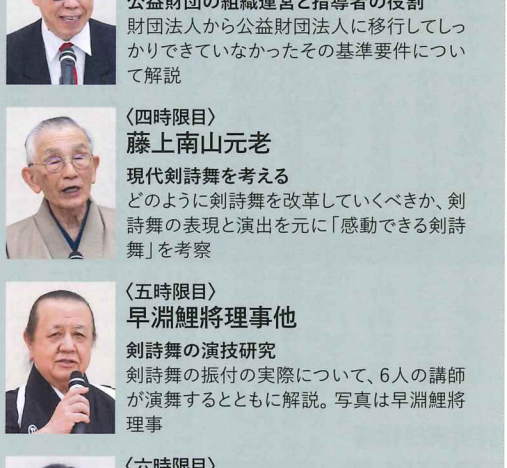
〈三時限目〉
池内賢二専務理事
 公益財団の組織運営と指導者の役割
 財団法人から公益財団法人に移行してしっかりできていなかったその基準要件について解説

〈四時限目〉
藤上南山元老
 現代剣詩舞を考える
 どのように剣詩舞を改革していくべきか、剣詩舞の表現と演出を元に「感動できる剣詩舞」を考察

〈五時限目〉
早淵鯉将理事他
 剣詩舞の演技研究
 剣詩舞の振付の実際について、6人の講師が演舞するとともに解説。写真は早淵鯉将理事

〈六時限目〉
梅若幸子先生(能楽 梅若会)
 現代における伝統芸能の課題
 霊を中心とした能の役柄、演者の役割分担など長い伝統を持つ能の世界観をわかりやすく解説

〈七時限目〉
意見交換
 剣詩舞の振興をめぐる
 舞の実践と振興について意見交換。写真は学校での民活の可能性について言及する江口清鳳参与



令和4年度剣詩舞道大学受講者一覧 ◎=班長、○=副班長

No.	地区	氏名	性別	流会派及び役職名
1	東北	吉田 光剣	女	神刀剣桜流剣詩舞剣桜館 宗範
2	東日本	石井 燈鸞	女	神燈流総本部
3	東日本	越谷 荘桂	女	国壮流荘孝会
4	東日本	高根沢 耀月	女	遊月流吟舞会
5	中部	建部 奨容◎	男	天辰神容流吟剣詩舞道 東海神容館 館長
6	中部	野中 昭樹	男	日本壮心流 浜松昭武館 指導助手
7	近畿	稲垣 千蘭○	女	正義流詩舞同好会総本部 師範
8	中国	岡 象泉	女	菊水流剣詩舞道 錬師
9	四国	近藤 堯翠	女	紫雲館吾妻流 副剣詩舞局長
10	四国	堀北 華洲	女	勢洲流剣詩舞道

No.	地区	氏名	性別	流会派及び役職名
11	東日本	那須 燈楓	女	神燈流総本部
12	東日本	越谷 綾荘	女	国壮流荘孝会
13	東日本	向出 昭蒼	男	日本壮心流
14	中部	長澤 潤心○	女	日本壮心流 昭武館総本部 水心会 師範
15	中部	山田 匡月	男	洪川流剣詩舞道
16	近畿	青柳 芳海	女	青柳流剣詩舞道
17	近畿	前田 鯉朋淳	女	神伝真正早流剣詩舞道
18	中国	三角 園薫風	女	菊水流剣詩舞道 錬師
19	四国	黒川 翠悠◎	女	紫雲館吾妻流 副剣詩舞局長
20	四国	東 悠城	男	剣城流錦龍館 指導副部長

No.	地区	氏名	性別	流会派及び役職名
21	東日本	高津 秀恵◎	女	菊秀流宗家代行
22	東日本	田中 理扇	女	翠扇流翠扇会
23	中部	上岡 昶星	女	昶明流剣詩舞道 治昶館 事務局長
24	中部	松原 昶聖	女	昶明流剣詩舞道 治昶館
25	中部	田中 宗純	女	宗生流剣詩舞道 総本部 正師範
26	近畿	青柳 芳頭樺	女	青柳流剣詩舞道
27	中国	佐々木 伸山	男	鉄心流剣詩舞道 副会長
28	四国	高尾 靈夢	女	水心黎明流剣詩舞道黎明館詩舞会 理事
29	四国	東 江城	女	剣城流錦龍館剣詩舞道総本部
30	九州	石田 飛祥○	男	小天真道流剣舞道 師範

No.	地区	氏名	性別	流会派及び役職名
31	東日本	竹田 秀玄○	男	菊秀流秀玄会 会長
32	東日本	田代 華濤	女	桃山流みやこ舞
33	中部	古田 星紗	女	星舟流詩舞 副会長
34	中部	永峰 徹風	男	神心流 準師範
35	中部	玉村 榮法	女	真舞流真富士吟舞道会 師範代
36	近畿	沖西 鯉瑞祥	女	神伝真正早流剣詩舞道
37	中国	安長 馨優	女	馨風流吟剣詩舞道 常任理事
38	中国	三戸 翠天◎	女	吟詠詩舞道玉翠流翠混会 常任理事・大分支部長
39	四国	篠原 靈菁	女	水心黎明流剣詩舞道黎明館詩舞会 常任理事

吟道大学、剣詩舞道大学ではおなじみの「とり舟体操」。朝6時20分から、役員・講師を含め全員で元気な声を出して身体を動かした



多田正稔副会長
舞うことの楽しさを伝えていただきたい

「昔、船の科学館でやったときに受講しましたが、「しっかり勉強しなくては」と集中したのを覚えています。長年続けているとパターン化してしまう部分がありますが、今回は藤上南山先生や能楽の梅若幸子先生にもご講義いただき、良かったと思います。また昔は聴く講義ばかりでしたが、体育館で実際に踊る練習もあり、私も一緒に舞わせていただきました(笑)。やはり舞うことは楽しいというのが原点であり、このことをいかに伝えていくかが、指導者にとって大事なことだと思います」



左: 剣舞『中庸』: 那須燈楓さん(東日本)。指導は上岡昶星さんと
右: 詩舞『和歌 あさみどり』: 沖西鯉瑞祥さん(近畿)。指導は見城星舟代議員

〈九時限目〉受講者指名演舞

最後の課題は各地区連協から推薦された計7人が、令和4年度の剣詩舞コンクール指定吟題を実際に舞い、講師の先生方に指導していただきました。

那須燈楓さん「高名な先生方がずらりと並んでいらしてコンクール以上に緊張しました(笑)。考えている余裕もなく、こなすのに精一杯という感じで。今回の練習で宗家からも目付については言われてきたのですが、目がいて身体がいて刀がいくと順番にいかねばならないというのはずっとできていなく、上岡先生から改めて指摘されて今後のまた課題となりました」

沖西鯉瑞祥さん「(早淵鯉将)宗家も見えていらして緊張しましたが、今日のために練習してきたのでとにかく落ち着いていこうと。満足とまではいきませんが、その気持ちは持ってできました。見城先生からはかなり細かいご指摘をいただきましたが、女性の先生から指導を受ける機会が少ないので新鮮でした。とくに腕の伸ばし方のコツについては勉強になりました」

誓いを新たに: 班長の声



第1班班長: 建部奨容さん

「第1班班長ということで(杉浦容楓)家元からも「栄える役職だからちゃんと頑張ってください」と送り出されました。小さな子から年配の方まで剣詩舞を続けてもらえるような指導の方法、練習の仕方を学んで帰りたいです」



第2班班長: 黒川翠悠さん

「全国からやって来られているので、いろんな練習の仕方や活動の仕方とかを聞かせていただこうと思って来ました。お能のごとく知らなかったこともいろいろ学べましたので、帰ってから流派の皆さんにも伝えたいと思います」



第3班班長: 高津秀恵さん

「ここ4、5年振付の勉強をしていますけど、扇や刀のさばき方、目線などいろいろ勉強させていただきました。意見交換で話された吟剣詩舞人口を増やすための方策などを、宗家や流派の皆さんとも話し合いたいです」



第4班班長: 三戸翠天さん

「強行スケジュールで大変だから頑張ってきてと送り出されましたが、その通りでした(笑)。しかし先生方の舞を近くで見られましたし、疑問に思っていたことを意見交換会で確認できたので非常に大きな収穫でした」

2月12日(日)
「鬼滅の刃」主題歌の実技講習も開催
2日目は6時20分から、恒例の点呼とり舟体操。ほとんどの受講生が初体験ですが、元氣一杯に身体を動かしました。1時間の休憩の間に着替えを済ませ荷物を持って集合、チェックアウトして朝食。慌ただしく1日が始まります。
〈八時限目〉
「剣詩舞実技指導」は、まず勤労青少年水上スポーツセンターにて杉浦英容参議が詩舞の指導。表情、身体

の動き、扇子などを使つての表現について細かく解説しました。その後、碧南市農業者コミュニティセンターの体育館に移動。入倉昭星理事による剣舞と詩舞の実技。入倉昭星理事が「一般の子供たちに教える時に興味を持ってもらうために」と人氣アニメ「鬼滅の刃」のオープニングテーマにつけた振付に、受講生全員が挑戦。皆、早いテンポにとまどいながらも興味津々で舞に励みました。
〈九時限目〉
7つの地区連協から推薦された7人が演舞を行い、それぞれ講師の先

生方が指導。左のコラムのように、各受講生とも緊張の中にも大きな収穫を得た貴重な時間となりました。
〈閉講式〉
2日間にわたる研修もついに終了。各班の班長に修了証書が授与され、受講生を代表して第4班三戸翠天班長が「全国各地にあつて吟剣詩舞道の普及発展に邁進することを誓います」と感謝の言葉を述べ、各受講生とも大きな満足感とともに、この成果を流派の皆さんにも伝えるべく、地元へ帰っていきましました。

〈八時限目〉剣詩舞実技指導

杉浦英容参議の詩舞の実技指導後、バスで碧南市農業者コミュニティセンターに移動。入倉昭星理事によるテレビアニメ「鬼滅の刃」のオープニングテーマ『紅蓮華』の実技指導も行われた

